

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

【運営理念・経営方針】「天に星・地に花・人に愛」

人にやさしい豊かな心を持って、地域福祉の信頼ある担い手として、地域社会に貢献して行きます。

また、みんなの笑顔があふれる福祉サービスの向上に努め、日々新たな気持ちで、活力ある経営を目指します。

- ① 保育・療育の運営実績から得たノウハウを最大限に生かし、安心・安全な保育・療育として相談支援を実現します。
- ② 地域密着型・地域との連携を重視した運営を行います。自主事業をはじめ、区内で最も地域との連携のとれた運営を目指します。
- ③ 世代間交流・異年齢間交流の促進を重視します。中高生ボランティア・高齢者交流などを運営に取り入れていきます。

【児童園運営理念】 こどもの“元気”を育てます！

- ① 「自立の力」を育てます
- ② 「あそぶ力」を育てます
- ③ 「気持ちを伝える力」を育てます

心身の発達に遅れやつまずきのある児童に対して、その子の発達段階に応じて個別的・集団的な指導を行い、基本的な動作の習得や人との関わりの楽しさの中から共に豊かな日常生活が過ごせるように、全体的な発達を促す支援をします。

【開所】

平成 26 年 4 月 1 日

【定員】

1 日…10 名

【営業時間】

月～金曜日、長期休暇を含む:10:00～17:00

土曜日、長期休暇を含む:10:00～17:00

【送迎実施の有無】

なし

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

【本人支援】

① 日常生活の充実と自立支援のための活動

子どもが意欲的に関わられるような遊びを通して成功体験の積み、自己肯定感を育めるように支援しています。また、子どもが通う学校での方針や役割分担等を共有できるよう、必要に応じて保育園や幼稚園等の関係機関と連携を図りながら支援を行います。

② 多様な遊びや体験活動

遊びの中に発達を促す要素がたくさんあるため、挑戦や失敗を含め、屋内外を問わず、様々な遊びを行います。また、体験したことや興味を持ったことに取り組むことは、新たにやってみたいと感じる機会に繋がることから、多様な体験の機会を提供し、子どもが望む遊びや体験、余暇等を自分で選択しながら取り組めるよう支援していきます。その際、配慮された環境やリラックスできる環境の提供を目指しています。

③ 地域交流の活動

社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、地域の中に子どもの居場所をつくりながら子どもの社会経験の幅を広げていきます。地域での遊びや体験の機会をつくるとともに、中学生職場体験の受け入れにより、積極的に地域との交流を図っています。こうした取り組みは子どもにとって、地域そのものが安心・安全な居場所となることにも繋がります。

④ 子どもが主体的に参画できる活動

子どもと一緒に活動を企画したり過ごし方のルールを作ったりするなど、子どもが主体的に参加できる機会を設け、意見を言いながら、一緒に活動を組み立てていきます。その際、子どもの意思を受け止め、個性に配慮するとともに、子どもに寄り添いながら進めていくことで、自分自身が主体であることを実感できる機会を設けています。

【家族支援】

<目 的>

事業者が児童福祉法に係る法令に基づき、家庭へのより綿密な支援の提供と療育に関する情報共有や日々の相談事の早期解決に繋げること。

<具 体 例>

施設内での面談等を通して、日々の悩みの共有や個別支援計画に関する援助を行います。また、支援場面を通して子どもの特性や特性を踏めた関わり方を学ぶことができる機会を提供しています。

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

【移行支援】

<目 的>

具体的な移行先がある場合は、その移行先を見据えた支援をし、現時点で具体的な移行先がない場合は、子どもが地域で暮らす他の子どもと繋がりながら日常生活を送ることができるように支援を提供すること。また、入学・進学・就職等のライフステージ移行時は、取り巻く環境が大きく変化することを理解した上で支援すること。

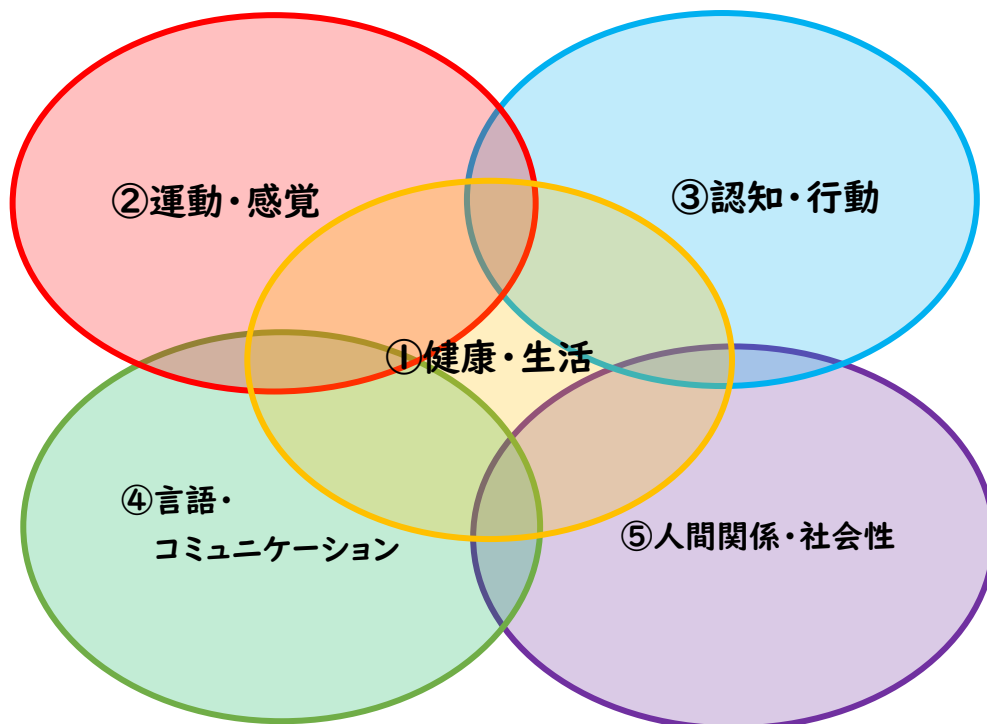
<具 体 例>

- ・区役所でのイベントへの参加(ボッチャ)、区民ひろば等での課外活動

【職員の質の向上】

- ① 採用時研修を採用後 1 か月以内に行っています。
- ② 継続研修を年 3 回以上行っています。
- ③ 毎日療育の振り返りを行っています。
- ④ 週 1 回全体ミーティングの時間を設けています。

1. 支援内容 ～療育の5領域とイルカ児童園の療育プログラムとの関連性～



①健康・生活

イルカ児童園は、保育型療育施設です。その特性を活かし、日々の療育の中で、“靴をそろえる”“手を洗う”“自分の荷物は自分で持つ”“排泄をする”“楽しんで食事をする”などの基本的な生活スキルの向上を目指しています。“自立”に向けた支援がテーマとなる為、子どもたちの

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

得意な事、できる事を中心に支援を進めていきます。

さらに、子どもたちが自立して日常生活や社会生活を送れるように、施設外での社会体験活動（買い物、地域施設訪問など）も取り入れ、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行っています。

【 具体例 】 カレンダーへのシール貼り（日付の確認）、朝の会、トイレトレーニング、洋服の着脱、

歯磨き、食事トレーニング、買い物体験 等

②運動・感覚

発達特性のある子どもには、身体を思い通りに動かすことが苦手な傾向があります。これは、運動をする為の情報を脳で処理したり、それを正確に筋肉へつたえる事が難しいからです。

日々の決まった流れの中で、必ず粗大運動・微細運動活動を取り入れています。運動サーキットやポーズカード等の運動療育プログラムを通して、脳の発達を促し、ボディイメージを高めます。子どもたちが自ら楽しみながら自然に運動能力を身に付け、達成感や意欲を育んでいきます。

また、運動や感覚遊びを通して、原始反射を整える事も療育に取り入れています。粗大運動から微細運動、感覚遊び等を通して、見る・聞く・触る・動かすを意識しながら、感覚統合を促していきます。

【 具体例 】 運動サーキット（鉄棒、縄跳び、トランポリン、マット運動等）、机上活動（ポットン落とし、お絵かき、絵具遊び、はさみ・のりを使った制作活動）、お散歩 等

③認知・行動

主に、遊びの中や子どもたちの好きな作業の中で、認知・行動を育みます。

特に集団療育では、登園→身支度→自由遊び→ポーズカード→朝の会→集団活動（運動サーキット・制作活動等）→お昼→午後の活動など、日々の決まったルーティーンがあります。安定した環境・流れの中で、友だちの様子を見たり、職員の指示を聞いたりする中で、行動に移せることもあります。まずは興味をもってもらう事、楽しいと思ってもらう事から始めています。

また、運動サーキットやルール遊びの中で、数の認知・空間認知・自己能力の認知の促しを行います。外部環境を主に視覚、聴覚、触覚から認知し、状況に合わせた行動をコントロールする事で、日常生活につなげていきます。さらに、ボディイメージの形成を目指す事で、力加減、怪我のリスク回避にもつなげていきます。

【 具体例 】 身支度、運動サーキット、ルール遊び、SST、絵本の読み聞かせ、玩具の貸し借り手遊び、リズム遊び、お散歩 等

④言語・コミュニケーション

職員や友だちとのコミュニケーションの中で、語彙力の向上や自発的な発声を促します。絵力

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

ードや写真、ハンドサイン等、子どもの特性に合わせたコミュニケーションツールを使用します。また、療育内で絵本の読み聞かせやテーマに沿ったディスカッションを取り入れ、体系的な言語の取得や他者との意思伝達が円滑にできるように支援していきます。

さらに、SST を取り入れ、社会の中で暮らしていく為のスキル獲得を目指します。

【 具体例 】 絵本の読み聞かせ、ルール遊び、机上活動(トランプ、カルタ等)、SST
絵カード・ハンドサイン、名詞カード、歌(朝の歌、帰りの歌、季節の歌、) お誕生日会、手遊び 等

⑤人間関係・社会性

異年齢で運動遊びや制作活動等行う事により、年齢や能力に合わせたコミュニケーション方法の取得や、友だちと協調する力を養います。特に勝ち負けのある遊びを行う事で、ルールを理解する力、言葉を理解する力、他人と協調する力などを養います。

また、感情のコントロール支援においては、感情の分化を行うと同時に、気持ちを受け止めてもらう経験を増やします。そして、その先にある自分で落ち着く力を身に付けられるように、コントロール方法の提示や練習、環境設定の支援を行います。

さらに、集団活動にも参加できるように、スモールステップで支援を行います。“自分と先生”“おもちゃと自分”の関係を確立させ、“自分と友だち”と徐々に人間関係の輪を広げていきます。そこには、声掛けだけでなく、見守る姿勢やきっかけづくりの為の環境設定等、様々なアプローチがあります。子どもたちのペースに合わせて、他者意識や集団活動の参加ができるように促していきます。

【 具体例 】 社会体験(買い物体験、遠足、公園遊び等)、ルール遊び、気持ちの温度計、
アンガーマネジメント、『今日の気持ち』日記、お誕生日会、季節のイベント 等

2. イルカ児童園の主な療育プログラム

① 応用行動分析(ABA:Applied Behavior Analysis)

応用行動分析は、アメリカの心理学者スキナーが提唱した理論をもとに発展した心理学的アプローチの事です。個人の行動は周囲の環境と相互作用で規定されるとし、過去の経験がよいものであればそれを発展的に行うようになり、嫌な経験だとしなくなるという知見から、成功体験を積み重ねることで行動を変えるよう働きかけていきます。

≪応用行動分析(ABA)の考え方≫

行動に着目する行動分析を、子どもの支援に活かす考え方として、ABA があります。ABA では、〈子どもの行動〉だけではなく、行動の〈きっかけ〉と〈結果〉に注目する事で、子どもに対する理解を深めていく事を目的としています。

★トークン・エコノミー

目標となる行動を決め、それができたらトークン(ご褒美)を出す。

例えば、毎日 5 回手を挙げて発表したらシールをあげる、など。

★プロンプトとプロンプトフェイディング

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

新たな行動を試みるとき、行動の前にそれを促すようなきっかけを与えること。

例えば、直接体に触れてやり方をガイドする（身体的プロンプト）、「ありがとう」と言ってもらいたいときに、「あり、あり…」など頭語をヒントとして与えて発話を促す（言語的プロンプト）、言って欲しい場所に目印を描く、指差しで教える（視覚的プロンプト）などがある。

※ここでは1事例のみの提示ですが、プロンプトにも様々な種類があります。

逆に、今まで出していたプロンプトをだんだんと縮小し、自立を促すことを「プロンプトフェイディング」という。

【 具体例 】

a. 行動のきっかけをなくす

→お菓子の取りあいが起こらないように、「同じお菓子を複数用意しておく」「けんかにならないように別の部屋で遊ばせる」などの対応が、してほしくない行動のきっかけをなくす、という具体的手続き。

b. 行動の〈結果〉に〈よい行動〉を提示する。

→「無理矢理引っ張ってほしいおもちゃをとろうとする」等の行動が見られた時に、おもちゃを渡さないという選択肢ではなく、それよりも、「貸して」「終わったらやらせてね」といった、よい行動を身に付けさせることに重きを置いた支援を行っていく。

② 認知行動療法(CBT:Cognitive Behavioral Therapy)

認知行動療法は、アメリカのAaron T Beckが開発した心理療法で、「認知療法」と「行動療法」を兼ね合わせた心理学的アプローチのことで、うつ病等の治療にも使われています。

人は外界から刺激を受け、それを認知して自分の行動を起こす。このとき、認知の仕方にゆがみ(偏見)があると、それがもとでストレスを感じる事がある。認知行動療法ではこの「認知のゆがみ」を修正するようなトレーニングを行うことで、自信をもって行動できるよう促していく。

ストレスを感じた具体的な出来事を取り上げて、その出来事が起きた時に「頭に浮かぶ考え(認知)」「感じる気持ち(感情)」「体の反応(身体)」「振る舞い(行動)」という4つの側面に注目する。そこから自分のストレス反応のパターンに気づき、さらなる悪循環に陥らないように調整していく事を目指していく。

≪ 認知行動療法(CBT)の考え方 ≫

- 自分のストレスに気づいて、心の問題を整理する。
- 自分の考え方(自動思考)が感情や行動にどう影響しているのか調べる。
- 自動思考の内容と現実の歪み(ずれ)に注目し、現実に沿った、より柔軟なものの見方に変える練習をする。
- 柔軟なものの見方が身についてきたら、問題を解決したり人間関係を改善する行動方法を練習する。

★アサーションスキル

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

自分と相手両方を尊重しながら、自己表現を行うスキルの事。主語を“自分”に置き換えたり、前向きなお願いをしたりすることで、自分と相手の意見を弱めすぎる事なく、心地よいコミュニケーションを目指す。

→自分が見た事実と感じている気持ちを交えて提案する。提案を否定する場合は、別の提案を試みる。

★リラクゼーション法

自分の身体をほぐして、ケアしていくスキル。緊張や不安を抱えていると、自然と筋肉が緊張して体がこわばってしまう為、身体に意識を向けて、リラックスしていく方法。

★エクスポージャー法(曝露法・曝露反応法)

「曝露」とは、苦手で避けている出来事に少しずつ慣れていく事。不安症やトラウマへの心理療法としても活用される事もある。

苦手な事をすると、その刺激により、ストレスや不安を感じる事がある。しかし、苦手な事を避け続けてしまうと、かえってストレスや不安が慢性化して大きくなってしまいう事がある。エクスポージャー法では、苦手な事を避けるのではなく、負担のない範囲からチャレンジして成功体験を増やしていき、苦手を克服していく。

★スキーマの修正

スキーマとは、「考え方(心の法則)」の事。過去の経験やトラウマ、成功体験などから作られた考え方のパターンで、実際に起きた出来事に対する捉え方に影響を与える事がある。

【 具体例 】

〔玩具の貸し借りにおいて〕

Aさんが「おもちゃを貸して」という。しかし、Bさんはおもちゃを使っただけ。

Bさんはなんと言ったらよいでしょうか？

Bさん「おもちゃを貸してあげたい気持ちもあるんだけど、今使っただけなの(事実と気持ちを伝える)。だから、もう少し後で貸してあげるね(別の提案)」と、言えるようになる。

〔人前でのスピーチ〕

人前でスピーチをするときに、ひどく緊張してしまう場合 C さん。

まずは一人の前(指導員のみ)で練習し、徐々に人数を増やしていく。少しずつ慣れていけるように調整していく。最後に、みんなの前で発表できるようになる。

③ SST(Social Skills Training)

SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)とは、認知行動療法を応用したアプローチで、社会で生きていく上で必要なスキルを会得するためのトレーニングです。人は人との関わりの中からさまざまな社会的ルールを学びます。しかし発達障害がある場合などはそのルールに気づくことができず、人間関係に困難を覚える場合があります。SST では、指示を理解したり、状況を判断したりすることや、人とのコミュニケーションを行う上での苦手意識を少なくするなど

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

のトレーニングを行います。

また、SST(ソーシャル・スキル・トレーニング)では、かるたやブロックなどのツールを使ったゲーム、寸劇のようなロールプレイ、そしてグループでの遊びやお話を通して、コミュニケーション能力を身に着ける訓練をします。

【 具体例 】

〔感情のコントロールが苦手な児童に対して〕

a. 感情カードを使用し、イラストや絵に描かれている表情が、どういう気持ちなのかを話してもらう。

例) ・笑顔カード…お菓子をもらってうれしい気持ちになった。

大好きな友だちと一緒に鬼ごっこをして遊んだ時、楽しい気持ちになった。等

・泣いているカード…弟におもちゃを取られて悲しくなった。

友だちと喧嘩しちゃって、涙が出てきちゃった。等

b. 数字の概念が理解できるようになったタイミングで、怒りの感情について、どういう気持ちになるのかを表現してもらう。

例) ・怒りが1の場合、「怒っていない時」「静かにできる時」等。

怒りが5の時は、「目の前になるおもちゃを投げたくなってしまう」「お母さんに“嫌だ嫌だ”って言いたくなってしまう」等。

c. 怒りの感情が出てきた時の約束ごとを決める。

例) ・怒りなくなったら、静かにできる部屋に行きたい、とその児童が決めた場合、クールダウン部屋を用意する。

・大好きな犬の写真を見たら、怒りの感情が落ち着くかもしれない、と決めた場合、その児童の好きな犬の写真を用意し、“見たくなった時に教えてね”と約束をする。
等

〔交通ルールを覚えるのが苦手な児童に対して〕

・横断歩道を確認せずに渡った時の危険な例について、ビデオやイラストで伝え、「ではどうしたらいいかな？」と考えてもらう。

・ルール遊びの中で、“ストップ”と言われたら、止まるゲームを行ったり、信号ゲームで“赤になったら止まる”等、生活の流れの中で交通ルールについて学ぶ機会を設ける。
等

④ 作業療法

作業療法は、人が持つ五感(視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚)や身体感覚(バランス、スピードなど)の統合に困難がある場合、これらをうまく統合して活動がスムーズにできるよう整えていきます。

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

日々の生活の中にある作業（ブロックのつなぎ合わせ、文字を書く、絵を描く、のり等の道具を使う等）を個別あるいは集団の中で用いる事で、心身ともに健康で“自分らしい”生活が送れるように援助するもの。

【 具体例 】

〔 スプーンがうまく使えない児童に対して 〕

・ペットボトルの蓋の開け閉め、新聞紙ちぎり、なぐり描き、粘土遊び 等

〔 靴下がうまく履けない児童に対して 〕

・ごっこ遊びの中でシュシュ（髪留め）を足首に通す、お玉ボール運びを行う、新聞紙丸め等

⑤ TEACCH（Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children）

TEACCH（ティーチ）は、自閉症やその傾向があり、コミュニケーションに課題を抱える人のためのプログラムです。アメリカのノースカロライナ州では、自閉症の人とその家族を生涯支えるプログラムとして 1972 年以来行われています。

TEACCH では、対象者を生涯にわたって支援します。支援は自治体など地域に根付いて行われ、対象者が地域で安定した生活ができ、かつ人生を豊かに過ごせるよう、一人ひとりの特性に合わせた個別スケジュールを作ってサポートします。

≪ 構造化の4つの要素 ≫

「物理的構造化」…環境・場所を構造化する為に、エリアごとにパーテーションで仕切る。異なる活動を同じ場所で行わない（勉強するスペース、着替えをするスペース等を固定する。）等

「時間の構造化」…スケジュールを提示し、活動の流れを視覚的に把握できるようにする。やるべきことのタスクリストや準備すべきもののチェックリストを作成する。等

「活動の構造化」…集団療育では、ポーズカード→おあつまり→運動サーキット→制作活動→着替え→昼食→午後の活動と、毎日決まった流れで活動を行う。着替え方を

統一する。 等

「視覚的構造化」…片付けの際に、どこに何を片付けるかがわかるように玩具箱に写真を貼っておく。水筒入れ、連絡帳入れ等身支度時にどこに何を置くのかを分かるようにイラストを貼っておく。 等

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

⑥運動療法

【 運動で脳を鍛える 】

原始反射は脳幹部に備わっています。原始反射は発育発達の過程で残存してしまう事があり、これが発育発達のトラブルを引き起こします。ADHD や自閉症、発語障害などにも運動によって、この原始反射を整える事は効果的です。

運動で土台をつくると、学習やスポーツ、アートなどの専門分野にもつながります。

「なぜできない」「どうしてもうまくいかない」という原因にも納得できる理由があります。

【 集団の療育で自立を目指す 】

友だちと競争したり、褒め合う事ができる環境でチャレンジと失敗・成功を繰り返す事で、自立を達成する事ができます。

運動を通して、挫けそうになっても這い上がってみせる心の逞しさ(リバウンドメンタリティ)を幼少期に身に付けます。自分自身やお友だちと向き合う環境を作ります。壁を感じ、壁を乗り越える力(マインド)を育みます。

【 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 】

「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。

脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。

★運動プログラム

- ・ポーズカード…両手両足を交互・又は同時に動かしていく中で、感覚刺激を行い、ボディイメージを高めていきます。

- ・ジャンプ…パーグー、パーケン、ケンケン、縄跳びなど

手のひら、足裏、そして体全体の連動性を高める事ができる。

- ・ボール運動…足の裏、手のひらをつかう事は鉛筆を握ることや文字を書く事、手を使う細かい動作に必要(把握反射)。足の裏は歩く、走るはもちろん、身体全体のバランスをとるととても重要な部位です。(足底反射)

- ・リトミック…ストーリーやイメージと運動をセットにして取り組んでいます。

音を聴いたり、音に合わせて身体を動かすだけではなく、ハイハイをする際に「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えることもできます。

- ・運動サーキット…平均台・ソフト巧技台・鉄棒・縄跳び・バランスストーン・マット運動等

※身体全体のボディイメージや感覚統合を意識し、一人で行う場合・ペアになって行う場合等、その日の子どもたちのコンディションや課題に合わせて内容を工夫しています。体幹を鍛えるだけではなく、“待つ事”“順番”も意識できるように

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

なったり、友だちの様子を見る事で“やってみよう”とやる気に繋がったりしています。

・微細運動…積木・パズル・タングラム・運筆・ポットン落とし・ブロック遊び・紐通し等

※数分ごとにあそびを変えて脳を刺激する脳の様々な力を切り替えながら行うことで、楽しく能力を育てることができます。また、子どもも飽きずに続けられるため、集中力も鍛えられます。

・雑巾がけ…床に足と手をついて、手で雑巾を床に押し当てながら掃除をする為、身体全体の筋肉を使う事になります。下半身や腕の強化だけではなく、身体全体のバランス感覚を養ったり、掃除した後の“きれいになった”という心地よさも感じながら取り組んでいます。

⑦言語療法

言語療法は、言葉を話したり聞いたりする機能に障害がある人に対して、日常生活を円滑に送る為に行われるリハビリテーションの事です。

リハビリテーションの中では、話す・聞く・書く・読む等の言語力の向上と非言語（ジェスチャー）を使用したコミュニケーションの練習や、口から安全に食べられるように噛む・飲み込むの練習、さらに目には見えにくい集中力・記憶力・思考力について練習等、様々な練習を通して、子どもたちが日常生活を過ごしやすくなるように支援をしています。

【 具体例 】

〔発音練習〕

・特定の音を正しく発音する為の練習をします。子どもが発音した音に対して、即座にフィードバックを行い、修正を促します。他にも、吹きゴマ等の玩具を用いたり、うがいや口の体操を行う中で、口の周りの筋力強化を行っています。

〔語彙の拡大〕

・新しい単語を学ぶ為に、絵カードや図鑑を使用して視覚的にサポートをしていきます。また、絵本の読み聞かせを行う中で、語彙を豊かにする活動も行っています。

〔会話スキルの育成〕

・実際の会話シチュエーションを想定してロールプレイを行い、会話のスキルを磨きます。他にも質問に答えたり、質問をしたりする練習を通じて、会話の流れを学びます。

〔社会的コミュニケーションの方法〕

・ジェスチャーを使って意味を伝える練習を行います。さらに、表情を使って感情を伝える練習で、他者の表情を読み取るスキルを強化します。

イルカ児童園療育プログラム（児童発達支援）

3. 児童発達支援 保育型療育施設～1日のスケジュール～

【集団療育 10:00-13:10】

10:00 順次登園

身支度後、自己活動

トイレトレーニング（児童の発達段階やタイミングによって、一日通して行う。）

10:30 片づけ

10:40 ポーズカード

11:00 朝の会（手遊び・絵本・朝の歌・朝の挨拶・季節の歌・呼名・

日にちの確認・今日の流れ確認）

11:10 グループ活動

（感覚遊び、運動サーキット、ルール遊び、園外遊び、制作活動等）

12:00 着替え・トイレ・食事準備

12:10 食事・歯磨き（・着替え）

自己活動

12:45 帰りの準備・帰りの会

13:00 FB

13:10 降園

【個別指導 14:30-16:10】

・粗大運動、微細運動、感覚統合、身辺自立、SST、言葉・文字カード、パズル等、個別支援計画書に沿って、一対一もしくは、一対二で指導していきます。

【小集団 土曜日 ①10:00-11:45 ②13:00-14:45】

・身支度、自己活動

・ポーズカード

・おあつまり（手遊び・絵本・挨拶・季節の歌・呼名・日にちの確認・今日の流れ確認）

・グループ活動（感覚遊び、運動サーキット、ルール遊び、園外遊び、制作活動等）

・着替え・自己活動

・帰りの会

・降園・FB

令和 6 年 9 月 作成

令和 7 年 1 月 修正